



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年8月14日

上場会社名 株式会社エムアップ 上場取引所 東
 コード番号 3661 URL http://www.m-up.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤宏一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	870	-	150	-	151	-	87	-
26年3月期第1四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 73百万円 (-%) 26年3月期第1四半期 -100百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	12.56	11.87
26年3月期第1四半期	-	-

(注) 当第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成24年3月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第1四半期	2,511	1,510	59.3	213.92
26年3月期	-	-	-	-

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 1,490百万円 26年3月期 1,542百万円

(注) 当第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	-	0.00	-	18.00	18.00
27年3月期	-	-	-	-	-
27年3月期(予想)	-	0.00	-	13.00	13.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
通期	3,142	△11.2	450	△3.7	450	5.6	270	1.3	40.00

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、増減率については記載しておりません。

第2四半期(累計)期間の業績予想については、業績管理を年次のみで行っているため、記載を省略しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）無
新規 -社（社名）-、除外 -社（社名）-
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期1Q	6,967,200株	26年3月期	6,967,200株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	86株	26年3月期	86株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期1Q	6,967,114株	26年3月期1Q	6,730,894株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、消費税増税に伴う反動から、一部に弱さが残るものの、企業収益や雇用情勢に改善が見られ、個人消費も持ち直しに向かうなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、海外経済の下振れ懸念など景気を下押しするリスクは残り、先行きはなお不透明な状況にあります。

当社を取り巻くインターネット関連市場につきましては、従来からの携帯電話端末やPC端末を通じたインターネット利用に加えて、スマートフォンやタブレット端末の利用が拡大し、また、高速モバイル通信の普及等に伴うインターネットの利用環境の整備が進むなど、今後も安定的な成長が期待されております。

携帯電話契約数は、平成26年3月末現在で1億4,413万件（前年同月比5.9%増）、人口普及率は113.4%となり、市場は成熟期を迎えておりますが、なお拡大を続けております（出所：MM総研）。その中でも、スマートフォンの普及率は、前年より13.1ポイント増加し、62.6%となるなど、より一層の普及が進み、市場の牽引役となっております（出所：総務省）。それに伴い、スマートフォンやタブレット端末を通じたインターネット利用も増加しております。

音楽ソフトの市場動向といたしましては、平成26年上半年（1月から6月）におけるオーディオレコードと音楽ビデオ合計の生産数量が113,091千枚（前年同期比7.8%減）、生産金額では128,825百万円（前年同期比3.2%減）と減少しておりますが（出所：一般社団法人日本レコード協会）、その一方で、コンサートの市場につきましては、平成25年の市場規模が231,832百万円（前年同期比36.3%増）と拡大しており、音楽やアーティストに対する底堅い需要が見られております。

このような外部環境の中、当社は、アーティストやタレント、キャラクターまでを幅広く取り扱い、ファンクラブサイトを軸に、音楽配信やしゃべってキャラといった多岐にわたるデジタルコンテンツから、eコマースに至るまでを複合的に展開できるという強みを生かし、サイトや事業間でのシナジー効果を発揮させ、収益を拡大することに努めてまいりました。

事業の基盤となる有料会員につきましては、流行が予想されるコンテンツのいち早い発掘と獲得、新規サイトの開設に注力し、その拡大を図ってまいりました。利用が拡大するスマートフォンへ向けた取り組みといたしましては、スマートフォン向けの新規コンテンツサービスを今後の当社の重要な月額会員制サイトと位置づけ、キャラクターを中心としたコンテンツを積極的に投入し、有料会員数の獲得を進めてまいりました。

音楽映像商品の直販事業につきましては、当社が携帯及びPCコンテンツ配信事業でファンクラブサイトを展開するアーティストを中心に、サイトオリジナルの商品や、独占販売商品の展開によって、サイトの認知度の向上と利用促進を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は870百万円、営業利益は150百万円、経常利益は151百万円、四半期純利益は87百万円となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

①携帯コンテンツ配信事業

携帯コンテンツ配信事業につきましては、アーティストやタレントの新規ファンクラブサイトの開設に、引き続き注力いたしました。加えて、ゆるキャラやアニメといったキャラクターの積極的な獲得とコンテンツ制作を行い、しゃべってコンシェルなどスマートフォン向けコンテンツサービスを中心に配信することで、事業の基盤となる有料会員の獲得を進めてまいりました。

また、キャリアの提供するスマートフォン向け月額使い放題サービスである、「スゴ得コンテンツ」や「スマートパス」におきましても、利用者ランキングの上位を獲得すべく、人気キャラクターのコンテンツを投入し、新たな収益機会の確保にも努めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における携帯コンテンツ配信事業の売上高は728百万円、セグメント利益は193百万円となりました。

②PCコンテンツ配信事業

PCコンテンツ配信事業につきましては、アーティスト及びタレント等の有料ファンクラブサイトにおいて、パッケージ商品やコンサートチケットの先行販売などを実施し、会員の維持、拡大を推進してまいりました。また、アーティストやスポーツ選手のオフィシャルサイトの受託制作など、他の事業セグメントも含め、将来の新たな収益の獲得と拡大に繋がることを見据えた事業展開を行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるPCコンテンツ配信事業の売上高は54百万円、セグメント利益は4百万円となりました。

③eコマース事業

eコマース事業につきましては、CD、DVD及びブルーレイなど音楽映像商品や、アーティストグッズの直販事業の拡大に取り組んでまいりました。

主力の音楽映像商品につきましては、当社が携帯及びPCコンテンツ配信事業で運営するアーティストのファンクラブサイト等を通じた直販と、大手レコード会社との提携によるレコード会社の公式販売サイトの運営管理の両面から、事業を展開いたしました。サイト限定やオリジナル商品の取り扱い、購入特典の付与、コンサートチケットの予約抽選といった施策によって、その利用促進を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるeコマース事業の売上高は87百万円、セグメント利益は31百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は1,668百万円となりました。主な内訳は、現金及び預金434百万円、売掛金806百万円、商品215百万円であります。

固定資産は843百万円となりました。主な内訳は、のれん71百万円、投資有価証券356百万円であります。

この結果、総資産は2,511百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は977百万円となりました。主な内訳は、買掛金651百万円であります。

固定負債は24百万円となりました。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は1,510百万円となりました。主な内訳は、資本金207百万円、資本剰余金234百万円、利益剰余金1,172百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、緩やかな景気の回復が続くと期待される一方で、足元では消費増税の反動により一部に弱さが残り、また海外景気の下振れも懸念されるなど、先行きはなお不透明な状況にあります。

一方で、当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンの普及が一巡し、それに伴ってコンテンツサービスもフィーチャーフォン向けからスマートフォン向けへと軸足が移行するなど、市場は大きな転換点にあり、モバイルビジネスを取り巻く環境は大きく変化することが見込まれております。

こうした事業環境の中、当社は技術及び市場動向の影響を受けにくい、ファンクラブサイトを中心とした公式サイトの開設と、それに伴う新規有料会員の獲得を推進しております。また、当社は、運営するフィーチャーフォン向け公式サイトのスマートフォンへの対応を完了させており、会員の移行が進んでおります。

しかしながら、スマートフォン向けコンテンツ市場はいまだ黎明期にあり、技術革新やサービスの流行と陳腐化の流れは早く、それらを的確に予測することは困難であります。加えて、フィーチャーフォン向けコンテンツ市場については、規模の縮小が継続しており、同業他社においても会員数は減少傾向にあります。

当社といたしましては、これまで以上に迅速な事業展開を進めていく方針であります。携帯コンテンツ配信事業の業績予想は、スマートフォンの影響を最大限に加味し、保守的なものとしております。また、ファンクラブサイトにつきましては、その開設時期はアーティストや事務所等の意向も反映され決定されます。そのため、予算策定時点において開設時期が決定していないファンクラブサイトについては業績予想へは織り込まないこととしております。

eコマース事業におけるCD/DVD等パッケージ商品の販売につきましても、その発売時期は、アーティストの活動状況により変動いたします。発売が未定である下期以降の新譜につきましても、同様に業績予想へは織り込まないこととしております。新規ファンクラブサイト、及び商品のリリースが決定し次第、業績予想は見直していく方針です。

費用面では、販売に比例し増減するロイヤリティ等や、採用の強化に伴う人材関連費用の増加を見込んでおります。

以上により、平成27年3月期の業績予想については、売上高3,142百万円、営業利益450百万円、経常利益450百万円、当期純利益270百万円を見込んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、当第1四半期連結累計期間において、株式会社ゆるキャラの株式の60%を取得し、同社を子会社としたため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	434,361
売掛金	806,116
商品	215,753
前渡金	58,597
1年内回収予定の長期貸付金	117,000
繰延税金資産	52,148
その他	31,151
貸倒引当金	△46,385
流動資産合計	1,668,743
固定資産	
有形固定資産	139,107
無形固定資産	
のれん	71,248
その他	31,142
無形固定資産合計	102,390
投資その他の資産	
投資有価証券	356,990
長期貸付金	44,170
出資金	96,600
繰延税金資産	78,306
その他	65,818
貸倒引当金	△40,170
投資その他の資産合計	601,715
固定資産合計	843,213
資産合計	2,511,956
負債の部	
流動負債	
買掛金	651,530
未払法人税等	58,781
賞与引当金	12,006
役員賞与引当金	7,500
その他	247,186
流動負債合計	977,005
固定負債	
資産除去債務	11,887
その他	12,390
固定負債合計	24,277
負債合計	1,001,283
純資産の部	
株主資本	
資本金	207,854
資本剰余金	234,121
利益剰余金	1,172,503
自己株式	△48
株主資本合計	1,614,431
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△124,032
その他の包括利益累計額合計	△124,032
新株予約権	17,135
少数株主持分	3,138
純資産合計	1,510,673
負債純資産合計	2,511,956

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	870,352
売上原価	535,567
売上総利益	334,785
販売費及び一般管理費	184,074
営業利益	150,711
営業外収益	
雑収入	435
営業外収益合計	435
経常利益	151,146
税金等調整前四半期純利益	151,146
法人税、住民税及び事業税	57,111
法人税等調整額	6,535
法人税等合計	63,646
少数株主損益調整前当期純利益	87,500
四半期純利益	87,500

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	87,500
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△13,792
その他の包括利益合計	△13,792
四半期包括利益	73,707
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	73,707
少数株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	携帯 コンテンツ 配信事業	PC コンテンツ 配信事業	eコマース 事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	728,240	54,340	87,771	870,352	-	870,352
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	728,240	54,340	87,771	870,352	-	870,352
セグメント利益	193,352	4,285	31,899	229,537	△78,826	150,711

(注) 1. セグメント利益の調整額△78,826千円は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 当第1四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますが、当第1四半期連結会計期間の末日をみなし取得日としているため、連結子会社の売上高及び利益又は損失の金額は四半期連結損益計算書に含めておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間より株式会社ゆるキャラを連結子会社といたしました。なお、当該事象におけるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において4,292千円であります。